

《長崎新聞 平成26年3月24日朝刊より転載》

【質問】1カ月健診でワクチンの同時接種を勧められました。大丈夫なのでしょうか。
(26歳、女性)

乳幼児の予防接種

【回答】子どもは抵抗力が弱く、感染症にかかると重い後遺症が残ったり、命が脅かされることもあります。そのために予防が大切です。その確実な方法が予防接種です。

予防接種は生後2カ月から始めますが、1歳までに接種する主なワクチンだけでも6、7種類あり、それぞれ複数回の接種が必要です。合計すると15回以上接種することになります。そ



同時接種が負担を軽減するのに役立ちます。
同時接種とは、2種類以上のワクチンを一緒に接種

同時に受けて負担軽減

の上、ワクチンごとに接種できる時期が異なり、次のワクチンを打つまでの間隔にも決まりがあります。

これを一つずつ行うと、全部終わるまでにかかなりの時間がかかる上、毎週のように通院しなければなりません。そこで、ワクチンの

わりはなく、一番心配な副反応が出やすくすることもなく、医学的な不利益は特に報告されていません。
ワクチンには、予防接種法で定められ必ず接種しないといけない「定期接種」と、それ以外の「任意接種」があります。
任意接種は「費用が高く、

することで、世界では10年以上前から行われています。1回に打つワクチンの本数や種類の組み合わせに制限はありません。同時接種を行うと必要な免疫を早くつけることができます。
1種類ずつ日を空けて接種した場合と比べて効果に変

病気が症状が軽いから接種しなくてもいい」と考える保護者もおられますが、そのうちではありません。任意接種の病気でも重篤な病気もあります。費用負担は大きくなりますが、接種することをお勧めします。医師会としても公費の補助が出る

副反応などの心配なし

よくに努力しています。
一番大切なことはお子さんのできるだけ早く免疫をつけて、怖い病気から守ってあげることです。そのため「かかりつけの小児科医」を持つことがとても大切です。予防接種に何度も通う中で医師や看護師さんと顔なじみになり、ワクチンのことだけでなく、いろんな病気について相談しやすくなります。普段の元気なときの状態を知ってもらおうとで、お子さんの様子がいつもと違うときに早く気付いてもらえます。
1カ月健診の時に産婦人科の先生に相談し、場合によっては小児科の先生を紹介してもらって予防接種のスケジュールを組んでもらうと良いでしょう。
(県医師会)

質問をどうぞ

この欄では県医師会が医療制度全般の質問にお答えします。質問希望の方は知りたい内容を分かりやすくまとめ、〒852-8601、長崎市茂里町3の1、長崎新聞社生活文化部「医療制度Q&A」係までお送りください。不明な点をお聞きする場合がありますので住所、氏名、年齢、性別、電話番号を明記してください。なお、直接本人への回答はいたしません。